

2025 年 10 月 5 日

(朝 10:30-11:30)

聖 日 礼 拝

司会 城尾公彦

前 奏	全員黙祷 「新聖歌 23 番」	ヒムプレーヤー
招 詞	第 1 コリント 13 章 3～7 節(新 271 頁)	司会者
頌 栄	新聖歌 60 番	ヒムプレーヤー
主の祈り		全 員
使徒信条		全 員
交読文	新改訳 33 番 詩篇 104 篇 906 頁	司会者・全 員
聖 書	ヤコブの手紙 3 章 17～18 節(新 363 頁)	司会者
讃美歌	新聖歌 221 ああ主の瞳	ヒムプレーヤー
祈 祷	司会者による祈り	
	子供達の祝福の為に賛美 484 番	ヒムプレーヤー
聖餐式	新聖歌 52 備え給いし	
讃美歌	新聖歌 303 安かれわが心よ	ヒムプレーヤー
メッセージ	「聖書のみ信仰」	城尾マコト牧師
讃美歌	新聖歌 325 歌いつつ歩まん	ヒムプレーヤー
	証とお知らせの時間	
献 金	新聖歌 55 番	
頌 栄	新聖歌 63 番	
祝 祷		城尾マコト牧師
後 奏	全員黙祷 新聖歌 59 番	



Youtube



Facebook



HomePage

ヤコブ書 3 章「聖書のみ信仰」

「聖書はこう言っている」——イエス様が荒野で悪魔の誘惑に立ち向かわれた時、用いられたのは御言葉でした。人間の知恵でも、自らの神性でもなく、ただ聖書の言葉をもって対抗されたのです。聖書には神の権威が伴っています。

五百年前の宗教改革によって、ラテン語だけでなく人々の母語で印刷された聖書を手にできるようになりました。「権威ある人がそう言っているから」「教会の伝統がそうだから」ではなく、ただ「聖書のみ」を信仰の拠り所とする道が開かれたのです。聖書は神の靈感によって書き留められた、唯一無二の権威なのです。

弟ヤコブの物語は、この真理を力強く証しています。幼い頃から兄イエス様と共に聖書を学び育ったヤコブ。若くして召された父ヨセフの後を継ぎ、大工として働いておられた兄は、頼りになる家長でした。

十二歳の時、エルサレム神殿で学者たちと議論するイエス様の姿に、家族は驚いたことでしょう。「この子は普通ではないかもしれない」と。しかし日々の生活の中で、その思いは薄れていったのかもしれない。

やがてイエス様は家を出て、神の国を語り始めました。律法学者たちと対立し、権威に逆らう兄。家族は戸惑い、「何をしているんだ」という思いを抱いたでしょう。そしてついに十字架刑。「だから言ったのに...」という思いだったかもしれません。

ところが——復活。すべてがひっくり返る瞬間でした。子供の頃に兄から聞いた聖書の言葉、メシア預言、すべてが一気に繋がったのです。「本当にメシアだったんだ！聖書が預言していた通りだ！」

身内だからこそ、すぐには信じられませんでした。でも、だからこそ、信じた時の確信は揺るぎないものとなりました。ヤコブは、人間的な視点——「身内」という関係性、日常の経験、常識的な判断——が、真実を見えなくさせていたことを悟ったのです。しかし復活によって、聖書こそが真実だったと確信しました。人間の判断や感情ではなく、神の靈感によって書かれた聖書の言葉こそが、絶対的な権威であり、真理なのだと。

遅咲きながらも、ヤコブはエルサレム教会の指導者として、力強い信仰の証人となりました。

復活されたイエス様は弟子たちに命じられました。「この福音を宣べ伝えなさい。わたしは道であり、真理であり、いのちです」(マルコ 16 章)。今、私たちのもとにまでこの福音は届き、バプテスマを受け、聖餐式に与っています。これが「聖書のみ信仰」です。私たちも時には人間的な視点に囚われてしまうかもしれませんが、聖書に立ち返る時、私たちは真理を見出すのです。「聖書はこう言っている」——この言葉に込められた権威と真実を、私たちは受け継いでいます。神の靈感によって書き留められた聖書こそが、私たちの信仰の唯一の土台です。

城尾マコト牧師